

1 学校教育目標

○けんこうな子…心身ともに健康な子を育てる ○助け合う子…情操豊かで人を大切にできる子を育てる ○よく考える子…よく考え進んで学ぶ子を育てる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者にとって…子どもを通して「安心感がもてる学校」 ○在校生にとって…学校生活に希望をもち「わくわくする学校」 ○卒業生にとって…卒業したことに「誇りをもてる学校」 ○地域にとって…地域の宝だと「大切に思う学校」 ○教職員にとって…心をつなげて「チームワークを発揮できる学校」
○児童・生徒像	○1秒の言葉…「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」等、自分の思いを相手に伝えることができる子 ○「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる」ことをめざす自己肯定感をもてる子 ○3つの無言…「無言時静止」「無言ゾーン」「無言清掃」を守って、安全安心な生活習慣を培える子
○教師像	○互いに切磋琢磨し、質の高い3つの『わ』の授業（「わくわくする授業」「わかる授業」「わらいのある授業」）を実践できる教師 ○発想の転換ができ、それぞれの役割を発揮しながら本来のチームワークを結集できる教師集団 ○自らのルーティンワークを確立し、働き方改革を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○児童
・素直で明るく挨拶がよくできる。学校生活を楽しんでいる児童がほとんどである。90周年を契機にさらに一体感を育んでいる。
・学習面では基礎学力の定着が図られている。体力面では国や都の平均値よりやや下回る。発達障害的集団不応児も改善傾向にある。

○教師
・経験年数が浅い教員が多いが、授業は足立スタンダードを元に安定した授業を日々行っている。初期対応と情報共有をモットーとしている。
・主幹教諭2名を柱に4名の主任教諭が補佐として各部をまとめ、それぞれの力量を組織チームワーク力として学校力向上に向けている。

○保護者、地域
・本校教育活動に対して理解があり協力的な保護者が多い。PTA 会長を筆頭に本部役員は献身的な協力姿勢である。
・7町会ある。どの町会も本校に対して愛着と協力的態度に満ちている。コロナ禍でも、子どもに対してできることを模索している。

【前年度の成果と課題】

○重点的な取り組み事項－1(学力向上プラン)
・4月区学力調査通過率は、国語 83.0%→86.8%、算数 85.2%→87.8%と前年度より確実に向上が見られ、目標値を大きくクリアしている。
・学力向上アクションプランに示した6項目中、◎:十分達成が3項目、○:おおむね達成が3項目となり、学力向上の取組として十分な成果を出した。

○重点的な取り組み事項－2(豊かな心の育成)
・90周年への「心はひと～つ！」のキャッチフレーズを柱に、各種取組の中で団結感が生まれ、異学年や特別支援学級との交流で一体感が培われた。
・「一秒の言葉」の励行を学校経営方針の第一に掲げ、朝礼を筆頭に事あるごとに啓発した結果、基本的な挨拶とともに言葉で伝えられる児童が増えた。
・アンケートからも自己肯定感のみが今一歩である。いじめや不登校解消に向けて、組織的かつ家庭との連携強化を図っていくことを継続する。

○重点的な取り組み事項－3(体力向上)
・都体力調査結果から、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ソフトボールは上昇もしくは横這いだが、他種目で低下が見られ都の平均値を下回った。
・サーキットトレーニングを実践継続しているが、新たに持久力、心肺能力を高めるトレーニングを取り入れて総合的な体力向上を図っていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。		年度当初 両教科 80%以上 年度末 両教科 80%以上				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年 国語 算数	毎週 火～金 曜実施 始業前 15分	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習, 定着 【使用教材】 AIドリル, 自作教材 等	漢字テスト 東京ベーシックドリル 等	年間を通じ, 全学年漢字テスト正答率を80%以上を保つ。	自己評価の際に記入		
2 継続	放課後補習	全学年の 補習必要 児童 国語 算数	通年 放課後	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的な内容の定着、現学習単元の補充 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル等	日々の授業 単元テスト 到達度確認テスト 等	2月の確認テストで国語・算数共に通過率を80%以上に保つ。			

3 新規	校長室検 定	全学年 九九 4年生 23区 5年生 都道府 県 検定	通年 中休み 昼休み	【指導者体制】 管理職・学力向上委員会 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント 合格証・免許状	校長室での検 定	九九は各学 級90%以上 23区・都道府 県は各学級の8 0%以上 の合格者をめ ざす。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>	
4 継続	夏季補習 教室	各学年 10名程度 の対象者 国語 算数	夏季休 業中 10日間	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	到達度確認テ スト	2月の確認テ ストで国語・算 数共に通過率を 3%以上アップさ せる。		
5 継続	ICT機器 活用 [授業力向 上]	全学年 全教員	通年 授業中	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 ICT機器を活用し、より質の 高い授業を实践する 【使用教材】機器・AIドリル等	週案簿へ記録 巡視で確認	1日1回以上 ICT 機器を活用 した授業を行う。		

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「1秒の言葉」の励行	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査の「挨拶」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 保護者アンケートの「挨拶」の項目で80%以上が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい。ありがとう。ごめんなさい。」を基本とした挨拶等自分の思いを相手に伝えることを学校経営目標のひとつとする。 教職員や児童、代表委員会による毎朝の挨拶運動の実施。 	自己評価の際に記入		
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」を目指した自己肯定感の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査の「自己肯定感」の項目で80%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動に賞賛による啓発指導の取り入れ。 「3つの無言」を遵守し、安全安心な生活を送る習慣の定着。 行事への主体的な関わる機会の設定と事前事後指導の実践。 			
集団帰属意識の向上（異学年活動・特別支援学級との交流活動）	<ul style="list-style-type: none"> 全学年における交流活動の実践100%達成 意識調査の「協力的態度」の項目で80%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流（縦割り班）活動の実施。 特別支援学級と通常学級の交流学習。 幼保小連携教育の実施。 			
いじめ防止 不登校対応	<ul style="list-style-type: none"> 年度末でのいじめ解消率100% 不登校を減少 意識調査の「学校は楽しい」の項目で80%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜に夕会にて各学年に人権教育プログラムを用いた人権に関する研修の実施。 年2回全教員での生活指導全体会を実施し情報を共有。 関係機関との連携。 			

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力及び運動能力の向上	・都の体力調査で全項目前年度数値を上回る	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館体育でのサーキットトレーニングの継続。 ・校庭体育での持久力、心肺能力を高めるトレーニングの導入。 ・持久走旬間、縄跳び旬間の体育的行事の年間を通じた取組。 ・体力を高めるための環境作り。 	自己評価の際に記入		
体育の授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 ・都の体力調査の数値向上(前年比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫。 ・教師へ体育実技研修の実施。 			
保健及び食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の「食事」や「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムカードの継続。 ・保健指導や食育指導の充実。 ・養護教諭や栄養士と連携した授業の実施。 ・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発。 			
校内研修 体育実技研 [授業改善]	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査の「学校の授業は楽しい」の項目に肯定的に回答した児童80%以上 ・都の体力調査の数値向上(前年比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「からだほぐし」領域を基本とした体育授業の改善を図る。 ・校内研修として「運動技能の向上を図る指導法」をテーマとした授業改善について研修を深める。 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）